



TOHOKU SOUL SAUCE

いくつ知ってる？ 東北ソウル・ソース

この秋「わたす日本橋」ギャラリーでは、わたすのスタッフが出会い、探し出した、地元で愛される「ソウルな味」を紹介中です。いくつかの製造者さんを直に訪ね、ソースが生まれた背景、美味しさの裏話、開発秘話などを伺ってきました。大きい工場から家族単位で作っている所など様々ですが、それぞれのメーカー

PIC UP!

【青森】
上北農産加工株式会社
スタミナ源タレ

【秋田】
株式会社安藤醸造
しろだし

【岩手】
株式会社八木澤商店
奇跡の醤(ひしお)

【宮城】
よっちゃん農場
よっちゃん なんばん

【山形】
新栄水産有限会社
あみえび醤油

【福島】
株式会社GNS
たなつもの焙煎えごま油

青森県でのタレの
シェアNo.1といえ

ひとりの杜氏が
丹精込めて作る万能

人と人のご縁で
生まれた、奇跡の醤油

オーガニックの
青唐辛子の爽やかな辛

日本海の恵み
旨みたっぷりの魚

えごまを丁寧に圧搾した
風味抜群のオイル



わたすギャラリーにてこの秋9月から
地元で人気の東北調味料紹介中

さんが自分達のスタイルとこだわりを持って作られています。美味しい食べ方もしっかり聞いてきましたのでギャラリーボードをチェックしてくださいね。紹介した一部の商品は「わたす日本橋」で販売できる予定ですので、お楽しみに。また、皆さんからの「美味しいソウルな調味料情報」もお待ちしています！

わたす 新聞

今回は青森、岩手、
宮城にフォーカス！ Vol.6

2023年9月1日発行第6号 発行元：わたす日本橋

豪快、一体感、迫力。異なるスタイルの祭りを満喫！

「青森三大ねぶた祭り」

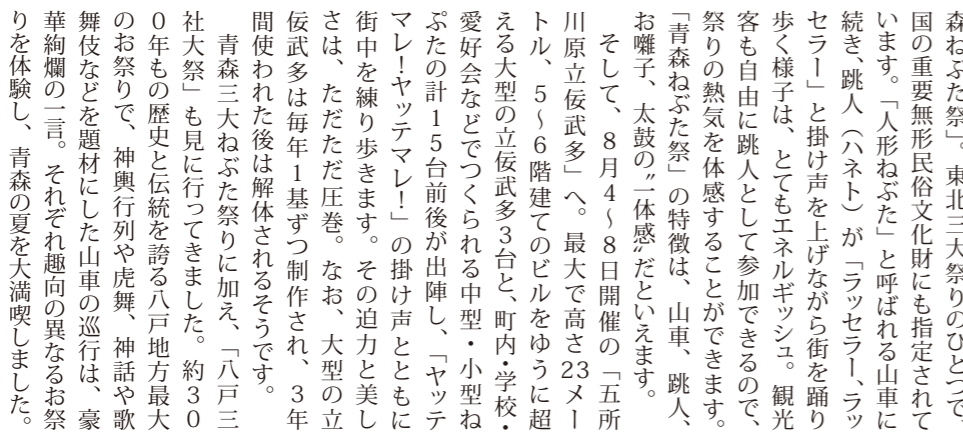
夏の青森はお祭りが盛りだくさん！なかでも、青森市の「青森ねぶた祭り」、弘前市の「弘前ねぶたまつり」、五所川原市の「五所川原立佞武多」は「青森三大ねぶた祭り」と呼ばれています。それぞれどんな特徴があるのでしょうか？同時期に開催されるので、3つとも体験すべく、青森三大ねぶた祭りの旅に出かけました。まずは8月1〜7日に行われる「弘前

ねぶたまつり」へ。大小約80台のねぶたが、「ヤーヤドー」の掛け声に合わせて市内を練り歩きます。『三國志』や『水滸伝』などを題材にした勇壮で色鮮やかな武者絵が描かれた扇形の山車「扇ねぶた」が特長で、特に最大9メートルもの大型ねぶたが引き回される豪快な動きが見どころ。「弘前のねぶた」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

次は、8月2〜7日に開催される「青森ねぶた祭り」。東北三大祭りのひとつで、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。「人形ねぶた」と呼ばれる山車に続き、跳人（ハネト）が「ラッセラー、ラッセラー」と掛け声を上げながら街を踊り歩く様子は、とてもエネルギーが溢れる。観光客も自由に跳人として参加できるので、祭りの熱気を体感することができます。「青森ねぶた祭り」の特徴は、山車、跳人、お囃子、太鼓の一体感だといえます。

そして、8月4〜8日開催の「五所川原立佞武多」へ。最大で高さ23メートル、5〜6階建てのビルをゆうに超える大型の立佞武多3台と、町内・学校・愛好会などできつられる中型・小型ねぶたの計15台前後が出陣し、「ヤツテマレ！ヤツテマレ！」の掛け声とともに街中を練り歩きます。その迫力と美しさは、ただただ圧巻。なお、大型の立佞武多は毎年1基ずつ制作され、3年間使われた後は解体されるそうです。

青森三大ねぶた祭りに加え、「八戸三社大祭」も見に行ってみました。約300年もの歴史と伝統を誇る八戸地方最大のお祭り、神輿行列や虎舞、神話や歌舞伎などを題材にした山車の巡行は、豪華絢爛の一言。それぞれ趣向の異なるお祭りを体験し、青森の夏を大満喫しました。



わたす
キッチンレシピ
4回
「わたす日本橋」シェフ直伝
宮城県産
メカジキのチリソース炒め
ふんわり卵とじ
Chef Yamashina

- 材料（2人分）
- メカジキ（一口大 cut） 200g
 - 料理酒 10cc
 - 濃口醤油 10cc
 - 片栗粉 20g
 - 溶き卵 1/2 個
 - （ケチャップ 50g）
 - （合わせ調味料）
 - ガラスープ 150g
 - 料理酒 30cc
 - 上白糖 30g
 - 片栗粉 15g



- ①下味を付けたメカジキを片栗粉・卵（1/2 個）でコーティングして油で揚げる。
- ②長葱・生姜・にんにく・豆板醤を胡麻油で炒めたら合わせ調味料を加えひと煮立ちさせる。
- ③ソースにメカジキを加え馴染ませたら卵（2 個）でとじる。
- ④皿に盛り万能葱をかける。

vol. 4
わたす
スタッフ
コラム
リンゴの花
「わたす日本橋」小岩 透



あの衝撃を忘れることはない！2018年5月であった。花に興味もない私があまりの花の美しさに感動し車を止めて撮影する衝動にかられた。今回題材を決めるにあたりかなり悩んだがああ感動を上回るものが無かったのでリンゴの花にした。場所は青森県弘前市。岩木山をバックに見事なまでに一面がリンゴの花に埋め尽くされていた。弘前市は桜でも有名ですがリンゴの花でも十分感動を与えられるくらい素晴らしいと思った。全国のリンゴ生産量では青森県がダントツ日本一。青森県内の中でも弘前市が生産量を誇る。言わずもがなリンゴの花も生産量に比例する形で咲き誇る。是非ともリンゴの花のシーズンに弘前を訪れてみてはいかがだろうか。

「青森」駅徒歩5分、街のど真ん中で楽しむ源泉の湯「まちなか温泉青森センターホテル」

「青森まちなか温泉」は、青森駅前では唯一の自家源泉掛け流しの「古川温泉」を使った天然温泉。大風呂・露天風呂・薬湯・子供風呂・水風呂・大型サウナなど種類豊富なお風呂があり、ビジネスでもレジャーでも利用できるホテルです。街の皆さんからも愛される、ほっこりする温泉に行ってみてはいかがでしょうか？



塚本さんのトークイベント開催
日時/9月17日(日)15:00~16:30
場所/わたす日本橋
参加費/2,000円(税込)
青森リンゴのスイーツ+ドリンク1杯付
お申し込みは(わたす日本橋)まで
TEL:03-3510-3185

わたすの
ねぶたに新風を吹き込む
若手ねぶた師
塚本利佳さん

今年の青森ねぶた祭りで、史上二人目の女性ねぶた師がデビューを果たしました。第六代ねぶた名人の北村隆さんに弟子入りし、十二年目になる塚本利佳さんです。二〇二一年、青森市にオープンした「ねぶたの家ワ・ラッセ」に足を運んだ際、塚本さんは北村さんの作品に心を奪われました。元々ねぶたに興味を持っていた塚本さんは、仕事を辞めて、弟子入りを志願。そして昨年のねぶた祭りの終了後に突然大型ねぶたを任せると言われ、北村さんが三十年以上手掛けてきた「青森山田学園」の大型ねぶたの後継することになりました。

師匠から受け継ぐ嬉しさとプレッシャーを抱えながら塚本さんがデビュー作に選んだ題材は、やはり病にかかるとなく疫病を追い払ったとされる源為朝を表現した「鎮西八郎為朝」でした。そこには、コロナ禍での医療・介護従事者への敬意と共に、彼らがいてこそ祭りが実現できることへの感謝の思いも込めたといいいます。

塚本さんの作品は、廃棄されるはずだったアイシャドウを使った赤色に特徴があり、迫力を持ちながらも柔らかさが魅力的でした。今後ねぶたの魅力発信すべく、新たな風を吹き込んでいくことを目指します。

編集後記
東北各地の伝統文化を「わたす」皆さん、そして受け継ぐ皆さんの想いに、編集しながら心揺さぶられました。（ねぎ娘）
東北の夏祭りといえば、私にとつての思い出は「盛岡さんさ踊り」。何度か踊り手として参加しましたが、あの高揚感が忘れられません！また踊りに行きたいです。（MK）
ダイニング&バルでお世話になってきた地元生産者さんたちを訪ねてきました。海と山の恵みを受けながら、丹精込めてつくる食材への愛情に、ただただ感動。（副編集長Y）
子供の頃、その数と鳴き声に「凄い！」と驚いた青森燕島神社のウミネコたち、何十年かぶりで見るとその数と迫力は、まさかの記憶以上でした。行ったことのあるところでもこの驚き、東北広い・深いです（ささ）

わたす
nihonbashi

■住所/東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー2階
■TEL/ 03-3510-3185
■WEBSITE/ https://www.watasu.net
■営業時間/ LUNCH 11:00~15:00 (L.O. 14:30)
CAFE 15:00~17:00
DINNER 17:00~22:00 (L.O. 21:00)
※日曜日および祝祭日は17:00閉店 (L.O. 16:00)です。DINNER営業はございません。
■休業日/年末年始



伝統・文化を今にうけつぐ

「わたす」世代に注目

先輩から後輩へ、師匠から弟子へ、そして、東北から世界へ。次世代へと「わたす」技術や想いのバトンが、時代を超えて、伝統文化として継承されていきます。

東北各地のアイデンティティを守る、若き継承者たちの活躍。想いと、次世代へ「わたす」先輩職人の想いを取材してきました。



想いが織り成す彩りを 北洋硝子(株) 津軽びいどろ



「津軽びいどろ」は、柔らかなフォルムに加え、日本の豊かな四季彩色表現が魅力。その色作りを一から手探りで始め、一〇〇を超える色のレシピを生み出した。北洋硝子の工場長・中川洋之さん。「手間がかかるけど、誰かの心に残る色を作りたい」という想いで、成形する職人と硝子の硬さを吹き心地を相談しながら色作りと熔融を一手に担って来ました。



「津軽びいどろ」の最大の特徴である「色彩豊かな色ガラス」や「作り手の想いや情熱」を商品やストーリーに乗せてこれからも作り続けていきます。

青森を代表する硝子工芸品「津軽びいどろ」は、柔らかなフォルムに加え、日本の豊かな四季彩色表現が魅力。その色作りを一から手探りで始め、一〇〇を超える色のレシピを生み出した。北洋硝子の工場長・中川洋之さん。「手間がかかるけど、誰かの心に残る色を作りたい」という想いで、成形する職人と硝子の硬さを吹き心地を相談しながら色作りと熔融を一手に担って来ました。

最近では、中川さんに続くうと地元の若手職人が増え、活気に溢れている製造現場。色の名前を覚えるだけでも大変で、根気と情熱がなければ続けていけないものの、若手職人たちからも刺激を受けているといいます。中川さんと次世代の想いが織り成す、新たな彩りにも注目です。



旬

秋冬編

夏、秋が旬の太刀魚。海水温上昇の影響により、近年は西日本だけでなく宮城県でも水揚げが増えています。ほどよく脂がのった上品なうまみが特徴で、定番の塩焼きや煮付けのほか、ムニエルや天ぷら・フライもおすすすめ。冬にかけて旬を迎える平目とともに、「わたすダイニング&バル」でぜひ味わってください。

世界に誇れる津軽三味線へ 五所川原第一高等学校 津軽三味線部



基本からオリジナル演奏まで幅広く練習し、音の揃った繊細かつダイナミックな音色は迫力満点。また、津軽三味線の魅力を国内のみならず世界に発信していくと、国内外へ数々の演奏を披露しています。三本の糸だけで、弱い音から強い音までさまざまな音を

五所川原第一高等学校の津軽三味線部は、平成十二年の同好会から始まり、平成十五年に創部。民謡・津軽三味線の表現できるのが魅力だと語る部員たち。慣れるまでは糸を弾く指先の皮が剥けてしまうこともあり、決して練習は易しくない部活ですが、一体となつて演奏している先輩たちの姿に憧れて入部する生徒も多く、今年も二十六名の部員が日々練習に励んでいます。今後のパフォーマンスにもご期待！



今年8月鹿兒島で行われた全国大会(全国高校総合文化祭)に出場しました。

全国二位の実績、感動を糧にして舞う 北上翔南高等学校 鬼剣舞部



「念仏剣舞」と言われる、供養や悪霊払いのための踊り念仏。その一つであり、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された「鬼剣舞」は、仏の化身として鬼のような面を付けた勇壮な踊りが特徴的で、太鼓・手平鉦・笛・踊りで構成されます。

六十名以上の部員数を誇り、約四十畳の宿泊研修室で練習を重ねる北上翔南高等学校鬼剣舞部。面を付けると視界が3割程度になる高度な踊りと

息の合ったおはやし演奏によるパフォーマンスで、全国高校総合文化祭では何度も上位を獲得しており、今年も全国二位という結果でした。コロナ禍で県内外での出演機会が減少していましたが、観客からの拍手による感動をモチベーションに繋げ、後輩たちへバトンを渡し続けます。



日頃は老人保健施設の慰問・各種イベント・国際交流事業などで公演を行っています。

岩手の中央を抜ける銀河鉄道は、近代史を辿る道？

岩手県の中央部、花巻から県を横切るように海辺の町・釜石と結ばれる釜石線。昭和の博物館や、賢治の童話・遠野の昔話の癒しとメルヘンの世界、鉄鋼、漁業と近代日本の産業の礎の世界と様々な日本の顔、歴史が見られる。一泊二日は欲しい、濃い沿線です。



迫力ある展示で応えのたつた鉄の博物館。入館後すぐ、しりとり動画の迫力にあいという間に「鉄の世界」に引きこまれる



「釜石の町」釜石。「鉄の博物館」世界遺産「橋野鉄鉱山」の2のこりー見学をおすすめしたい。鉄にあまり興味のない人も、この博物館と鉱山を見学すると、水や空気のように「鉄」が私たちの暮らし・命に欠かせないことがヒシヒシと伝わり近代日本の夜明を支えた鉄鋼の世界に胸が熱くなるはず。



「橋野鉄鉱山」のガイド、谷藤さん。日本の高度成長期に実際に鉄と共に交えた谷藤さんの言葉にワクワクする



釜石ラーメンも忘れずに食べよう！

※1: 蒸気機関車C58-239を復活させ、2014年4月~休日運行していたが、客車老朽化のため運行終了。

※2: 2015年、橋野鉄鉱山(橋野高炉跡及び関連遺跡)を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、世界遺産に登録。



遠野の町をのこかしこに人形が、はじめて見るのに懐かしいものばかり...

絵と文 ささこ

町と町、防災の取り組み

震災伝承と後方支援 釜石と遠野



いのちをつなぐ未来館(うのすまい・トモス内)

二〇一二年、東日本大震災の津波によって甚大な被害を受けた岩手県釜石市。一方、内陸部にある遠野市でも老朽化した市役所庁舎の一部が崩壊するなどの被害がありました。二〇〇七年から「地震・津波災害における後方支援拠点施設整備構想」を打ち出していたこともあり、いち早く後方支援を実施。陸上競技場・サッカー場・大型駐車場を車両基地や臨時ヘリポートとして開放し、停電時でも発電機によって災害対策本部機能を維持させました。また、遠野市民一丸となつて、炊き出しや支援物資の仕分け作業などにも取り組みました。両市の伝承施設でも、この後方支援の重要性についてたくさんの記録が残されています。

さらに二〇一九年、台風19号によって洪水が発生した釜石市は、翌年までにハザードマップを更新し、課題となった避難先の確保について遠野市と協議を行いました。そして二〇二二年、遠野市内の運動公園を避難場所として利用できる協定を締結。次々と起こる災害に、両市のように互いに補い合い、地域の特性を生かした命を守る連携を深めている取組みそのものが、震災の教訓を活かした防災となつていきます。

ぶらり 寄り道旅

一岩手県花巻駅～釜石駅

よりみち

山の駅・昭和の学校

三輪自動車 ミゼットの本物も!

中高校には懐かしすぎる!

花巻駅の西、花巻温泉エリアにある、「山の駅・昭和の学校」は、廃校になった小学校を利用して、昭和中期の懐かしいグッズが所狭しと展示されている。その数なんと20万点!今も着々と増え続けているらしい。

中高校には懐かしすぎる!

よりみち 赤茶っ子



まるでタイムマシン。時空を越える「遠野昔話」語り部さんの世界

囁くように語るその声は曲家の中ではぜる薪の音と共に心地よく響き、癒される。「ざしきわらし」や「おしらさま」の光景が在り在りと浮かんでくる。優しいその物語に涙が溢れる。「子供の頃、手仕事に忙しい両親のかわりに祖父母が每晚、昔話を語ってくれたんですよ」と話すのは語り部の井手さん。「語り部をはじめて5〜6年、私はまだまだですよ」と言うが、生まれた時から遠野の物語を夜伽話に育った江手さんの語り口にはまったくよみがえない。遠野に行ったら、この美しい昔語りには是非耳を傾けてほしい。



笑顔が素敵な、語り部・井手八重子さん

遠野昔話語り部の会 <http://kataribenokai.morioka-mhc.com/>
遠野ふるさと村(語り部は不定期) <https://www.tono-furusato.jp/>



3.11 東日本大震災 遠野市後方支援資料館